

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500892		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	宮城県大崎市三本木蟻ヶ袋字混内山1番地6		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者と知的障がい者がともに生活している共生型グループホームとなっている。「年をとっても障がいがあっても住み慣れた地域で、その人らしく生活できるよう支援します」を理念とし、入居後も自分の生活のペースを大切にしながらその人らしく過ごしていただけるよう支援している。また、地域とのつながりの面では地区の運動会への参加や通いなれた病院、床屋を継続して利用し関わりを持っているけるよう働きかけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道4号線と鳴瀬川の間であり、周りには市営住宅、民家が建ち並んでいる。徒歩圏内に、町役場、道の駅、同法人の特別養護老人ホーム百才館などがある。ホームは、高齢者と障がい者の共生施設で基本理念「年を取っても、障がいがあっても、住み慣れた地域で、楽しく 笑顔で ゆったりと 生活していただけるよう支援いたします」を掲げ支援を行っている。地域との交流は、オレンジカフェ(認知症)に参加、町内会の総会資料作成に協力、敬老会出席等である。避難訓練は地域の人、運営推進委員などが参加し協力体制が出来ている。看取りの時には入居前のかかりつけ医とホームのかかりつけ医が連携して支援を行っている。管理者と職員は会議の時や、日常的にも、意見や気付きなどを出し合い検討し、働きやすい環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHなのはな ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念はあるが、事業所独自で作成した理念を持ち、年度初めやケア会議の中で理念へ向けた生活ができるよ検討している。	法人の運営方針とユニット理念「楽しく 笑顔でゆったりと」は年度初めに職員で振り返り、検討している。また、掲示して常に確認している。利用者のペースを大切に、ゆっくり過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には参加していないが、地区の運動会に参加したり、買い物、散髪などの外出により以前の関係性を保てるよう支援している。また、施設の環境整備には地域の方に協力いただいている。	町内会との協力関係があり、会費は免除されている事から総会資料の作成に協力している。町内会から敬老祝い金が届いたり、草取りなどの協力がある。事業所として地域に貢献するよう努めており、「こども110番の家」の役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症サポーター養成講座を受講しており、また、地域ケア会議の参加や認知症高齢者の介護家族交流会の受け入れをおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の生活状況や活動状況の報告や地域の災害への対応などについて助言を頂いている。	年6回民生委員、地域包括職員、市職員、利用者、家族、職員が参加し開催している。議事録も整備され、会議では、ラジオ体操をしたら良いのではないかと意見があり取り入れ、利用者の楽しみになっている。メンバーとは、日常的にも意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市職員や包括支援センター職員に参加していただき、事業所の報告や地域の情報やアドバイスを頂いている。制度上の確認についてはその都度担当職員へ問い合わせ対応している。	生活保護や困難事例について相談している。また、人員配置や加算等についても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠は行わず、誰でも気軽に出入りできるようにしている。身体拘束の研修へ参加したり、ケア会議の中で身体拘束をする事がないよう話しあっている。	身体拘束の研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向を把握し、外出する際は、職員が同行し、地域住民の見守りもある。職員が利用者の生活音に注意を払って、センサーを使用せずにケアに努めている。施錠は夜間のみ17時から翌朝8時である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修への参加や声掛けなどにも注意していくよう会議は勿論ケアの中でも声を掛け合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もおり、研修等に参加し、周知する事で職員が理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明を行い、制度や料金の改正の際には文書と詳細の説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際に状況を伝え、意見を頂いている、また、頂いた意見については会議などで職員へ周知している。	入居時に共生型のホームである事を説明し、理解を得よう努めている。介護相談員が来訪し相談できる体制になっている。管理者や職員は家族の来訪時に利用者の状態を伝え、意見・要望を聞いている。行事の時は、利用者、家族、職員も一緒に楽しみながらコミュニケーションを深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議の中で職員から意見を求めたり、日常的に出た意見はその都度反映できるようにしている。	職員は、全体会議や日常的に管理者へ意見・要望を出すことができる。職員から食後の休憩時間についての要望があり取り入れた。子どもの育児休暇のほか、孫の育児休暇など、有給を取得しやすいように配慮している。研修や資格取得の為の受講は勤務と同じ扱いとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で導入した人事考課制度を活用しながら個々の実績や目標について本人、管理者と面接する機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は本人の希望を優先しながら出来るだけ参加をサポートし、資格取得の際スクーリング等へ参加する場合は職務専念免除などおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホーム同士で勉強会の開催や地域包括ケア会議に参加し意見交換や交流の機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては訪問調査を行い、本人、家族の意向や生活状況を把握し、どのように過ごしたいか等確認しながら安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で館内を見学していただき、当施設以外の情報についても提供しながら不安を解消できるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が望んでいる生活、希望を話し合い、出来る限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や掃除、畑仕事など日常生活の中で入居者の方から意見や伺いながら出来る事は一緒に行い、食事やお茶の時間は一緒の時間を過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族にも一緒に参加して頂き、遠方の家族とは電話や手紙の交換をし、関係性を保てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をもらいながら自宅への外泊や以前から利用していた病院の受診を継続したり、地域の行事へ参加していく事で馴染みの方との関わりを持てるよう支援している。	道の駅で開催するオレンジカフェに参加し、地域の馴染みの人と交流している。以前利用していたショートステイや、デイサービスの知人と会うこともある。馴染みの美容院へは希望があれば職員が同行している。正月やお盆を自宅で過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格など考慮しながらテーブルの配置を検討したり、同じ仕事を高齢、障がいの方がおこなう事で関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後には職員が面会に行く事で馴染みの関係を保てるよう支援し、相談などある場合は対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の支援の中や一緒にお茶を飲みながら会話や表情から意向や希望を把握するよう努めている。	家族から情報を得たり、利用者と一緒にお茶を飲んだり、TVを見ているときなどの日常の会話から、食べ物の好き嫌いや、利用者の好きなこと、やりたいことを把握している。取得した情報から、音楽を楽しんだり野菜作りなどの支援に繋げている。思いを伝えられない利用者は、表情などから思いを把握するよう努め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や入居後も会話の中や面会の際得た情報を把握し、共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりが自分のペースで過ごせるよう24時間の記録を作成し、必要な支援や好みを把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と介護職員にてアセスメントを実施。面会や電話にて状況を説明しながら意向を把握し、ケア会議にて全職員へ周知している。	介護計画の見直しは年2回行っている。家族の来訪時に意見を聞き、医師の指示と職員の気づきをミーティングで検討し、介護計画に反映させ、家族の同意を得ている。後見人にも来訪時に状態を報告し、意見を聞き、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎に24時間生活記録を作成し、引継ぎノートや状況表を使用する事で情報の共有や支援に活かすよう対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物への外出やバックアップ施設の協力をいただきながら出来る限り対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から利用していた床屋の利用を継続したり、地域の行事に参加などにより楽しみを持って過ごしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し今後の受診について希望を書確認している。入居前からのかかりつけ病院を継続していけるよう対応し必要時には職員も通院へ同行している。	協力医療機関をかかりつけ医にしている利用者の通院は職員が同行し、他のかかりつけ医に通院している利用者は、家族の付き添いを基本とし、必要な情報を提供している。専門医へは家族に相談し、職員と一緒に同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員の配置は無く、必要時には主治医への相談や往診していただく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際には情報の提供を行い、出来るだけスムーズに退院できるよう施設での対応など病院、家族と話し合いの場を持っていただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で施設での対応の説明や希望について確認を行っている。また、重度化した際は再度話し合いの場を持っていただき、その時々々の思いに対応するようにしている。	入居時にターミナルケア（看取り介護）の説明を行い同意を得ている。かかりつけ医が看取りの時期と判断し家族に説明する。それに伴い家族、本人の思いにそって介護計画を見直している。同法人の特養の看護師に相談することもある。職員は看取りの経験があり、フォローアップ研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習や事故発生時対応の研修に参加し、マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定にて避難訓練を実施。また、近所に住む民生委員の方に避難後の把握など協力をいただいている。	年2回夜間想定訓練も含めた避難訓練を行っている。高齢者と障がい者の共生型のホームで、夜勤は2人で対応している。訓練の時に家族、民生委員、地域住民が参加し見守りをしている。備蓄は4日分、スプリンクラー、火災報知器、消火器は、年2回業者が点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を考えた上で1人ひとりの性格を理解した声掛けを行うように努め、支援の中でおかしい時はお互いに注意しあうようにしている。	プライバシー、接遇などの研修を行い、一人ひとりの人格を尊重したケアを行っている。名前は、入居時に希望を聞いて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でその方に分かりやすい言葉で質問するよう心がけ、自分で決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なペースで声掛けは行うが、無理強いはせず、その時の本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時はどの洋服を着たいか選んで頂いたり、行きなれた床屋を継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど役割としておこなっていただいている。また、嗜好品については個別で準備し、食事の際に提供し、楽しんでいただいている。	メニュー作成は法人の管理栄養士が行い、職員が調理をしている。行事食は利用者と一緒に作ることもある。利用者の希望で、外食に行ったり、パンやケーキを買いに行くこともある。職員は利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの24時間シートにて食事量や水分量の把握し、食事量や好み、食事形態をその都度検討し、対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを自力で行える人には声掛けや準備を行い、一人で困難な方には口腔ケア支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるようさりげない声掛けをおこなっている。オムツの使用については出来るだけ減らせるよう話し合っている。	排泄チェック票に記録してあるパターンを把握し、自立できるように支援している。夜間時の排泄介助は、利用者の睡眠をさまたげないように配慮した支援をしている。便秘予防には運動を行ったり、水分を取るようになっているが、薬を使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを把握し、朝食時に乳製品の提供やこまめに水分の声掛けを行い、体操等身体を動かす機会を持っている。また、下剤の処方を受け、調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしており、本人の希望や体調を考えながら話しあい、本人のペースで入浴できるよう支援している。	入浴は一日置きが基本であるが、希望で毎日入浴できる。また、体調により、清拭などへ変更するなど、一人ひとりの状況に合わせて対応している。菖蒲湯・ゆず湯などを楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝についてはその人、その時にあわせ、休んで頂けるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬状況がわかるようにしており、変更があった際はその都度ケース記録及び連絡ノートに記入する事で全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑や家事など役割を持って生活できる方については出来るだけ継続しやりがいを持って過ごしていただけるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせてお花見や散歩、買い物へ出かけている。家族の協力を得ながら外食なども行っている。	年間の行事を計画し、春は菜の花や川沿いでの花見、夏はひまわり見学、敬老会、芋煮会など家族も一緒に行っている。法人の車で車椅子の人も遠出している。利用者の希望で外食したり、古川市に買い物行くこともある。日常的に職員と一緒に、近くのコンビニに新聞を買いに行っている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族へ意向を確認しながら自分でお金を管理している方もおり、外出時やパン屋来訪時に職員が確認しながら自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で番号を押すことは難しいが、職員が取り次いで家族と電話をしたり、遠方の家族へ行事や日頃の状況を自分で書いていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは温度、湿度に注意し、加湿器を設置している。また、照明も必要以上使わないよう注意している。また、散歩で取って来た花などを館内に飾り季節感を感じてもらっている。	食堂を兼ねたりリビングは、窓が大きく明るく、寛ぐためのソファやテレビが置かれている。キッチン是对面式で職員と利用者がコミュニケーションを取りやすく配慮され、見守りがしやすくなっている。日めくりカレンダーや大きな時計、季節毎の飾りなどがある。温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人の好みに合わせ、仲の良い利用者同士、テレビの近くなど席を検討している。また、廊下の一角にはソファとテーブルを設置し、談話できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅で使用していた家具、寝具等持ち込んでいただき、環境を整える協力をお願いしている。また、家族の写真や自分の作品を飾り居心地の良い環境を作っている。	居室は畳が敷かれ和風になっていて、エアコン、押し入れ、洗面台があり落ち着いた部屋になっている。入口には自分の写真を掲示している。各自がベッドや布団、馴染みのタンス、冷蔵庫、テレビを持ち込み、家族の写真を貼るなどして、居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーとなっている。また、センサーライトが設置してあり、夜間でも安全に移動できるようになっている。また、各部屋には表札を設置し、自分の部屋を認識しやすいようにしている。		